



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 7月5日発行 第 4 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

赤羽駅構内商業開発 一部オープンしただけで女子トイレに行列が！ 住民説明会で安全軽視・もうけ主義のJRに批判噴出

●JRは「地域と共存共栄」とそっけない説明

品川駅はじめ大宮、日暮里など次々と駅構内の商店街「エキュート」開発が進んでいますが、赤羽駅内部にもこの春一部オープンし、3・11震災で遅れたものの9月までに全面オープンの計画です。

7月4日夜、はじめての住民説明会が、地元赤羽地域の商店街などの主催で開かれました。JRの担当者は工事日程や大まかな店の配置を説明し「地域との共存共栄」をそっけなく語るだけです。

●駅も店も混雑した時の利用者の動きは「シミュレーションしたが公表しない」

住民や中小零細業者への説明会をねばりつよく求めてきた北区民主商工会のとりい事務局長が、「駅内に何店舗出すのか、駅利用者がどれだけふえるのか、人の流れはシミュレーションしたのか未だに正確に教えない」とJRに説明を求めると、ようやく「現在55店舗を予定」と説明。しかし「通勤ラッシュ時と買い物時間はズレがある」として、人の流れのシミュレーションは現在のラッシュ人数で行っただけで公表はしないと開き直りました。

●一部オープンだけで女子トイレに行列が！

参加者から次々と手が上がり、「安全よりもうけを優先している」「混雑時はたて横ななめに人が流れ、お年寄りが立ち往生している」「改善というなら北口からホームへのエレベータをつけて」などの意見が。

「お店が一部オープンしただけで女子トイレが外まで行列の状態。55店も造るのにトイレを増やさなければ駅のトイレがあふれてしまう」との意見もありました。

●「安全を優先」と言い変えたが、計画は強行する構え

JRの担当課長は「安全第一も大切だが、私たちは商売と安全を両立させていく」としていました。参加者の意見を受けて部長が「やはり安全が最優先」と答弁を修正。しかし計画は今のままとつぱりました。

●地元会長は「苦渋の思い」と…

最後に赤羽西口商店街の方が「我われも品川や日暮里の駅中商店を見てきたが、通路がはるかに広い」「赤羽駅は大丈夫か……（説明会）主催者としては苦渋の思い」と心情を吐露しました。

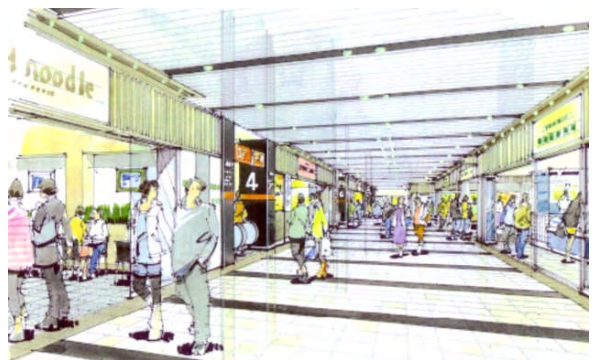
JRは「いただいた意見は社で検討する」とし、話合いの打ち切りはしないことを表明しました。

東電の“安全神話”と同質のJRのごうまん臭いを感じました *そねはじめ*

JRは自ら説明会を主催せず、地元の商店街の方がたが「つなぎ役」として議長席につきました。

JR発足の際「駅周辺の商業にダメージを与えない」と約束した「JR法第10条」を守れるのかとの質問に、その保障として説明されたのが、デジタル広告ビジョン6分間の画面転換の中で15秒だけ赤羽のまちを紹介するというもの。いかにも子供だましの印象でした。

いちばん心配なのは、混雑や事故でダイヤが乱れたときの、商店街の狭い通路の乗降客や買い物客の動きのシミュレーションが、「現在のラッシュ時の流れで」計算しただけで、しかも「公表できない」という点でした。東電の安全神話と同じ印象を受けたのは、私だけではないと思います。



JRの説明書にある駅なか商店街の人通り。ラッシュ時の“何割引き”でしょう。

そねはじめの東京都議会レポート

都民の声に耳をふさぎ、知事と共に墜落してゆく都議たち



6月23日、久びさに都議会代表質問を傍聴して驚きました。

共産党の質問の前に、公明党への答弁が延べ2時間近くも続いていました。

公明党の、論証ぬきに要望ばかり並べる「質問」を私は皮肉で「予算要望」と呼びますが、質問を受けた都側はやたらと丁寧な答弁を繰り返すので質問より答弁がはるかに長くなります。

●「原発をゼロに」の提案に「政党の資格がない」と答弁

やっとかち議員の質問になると状況は一変。原発ゼロを国に求めよという質問に、与党議員は、「できっこないぞ」「国会で言え」などとヤジの大合唱。

オリンピック基金4000億円を、震災復興や都民のくらしに使わず、またもや2020年オリンピックに立候補するために温存するということでは都民の納得が得られないと指摘すると、石原知事は「今どき原発ゼロなどという共産党に政党の資格があるのか」とか、「何でも反対の共産党でも東京五輪だけは賛同を」などと答弁しました。

これに対し自民・公明席からは拍手喝さい。傍聴席から見ると、公明党議員はニヤつきながら知事に「そうだそうだ」とはやし立てていました。

●局長らの答弁では、わが党提案の実現も

かち議員が、都が共産党都議団と同じ地上1mでの放射能測定を開始したのを歓迎しつつも、石原都政が骨抜きにしてきた災害・原発対策の拡充を求めると、さすがに都の局長らの答弁は冷静でした。

3月で打ち切られていた、太陽光発電のパネル設置への助成の復活は早速実現。予算打ち切りに賛成していた与党も、慌てて相乗りして決まりました。

都の地震被害想定に入っていなかった東海沖地震などのシミュレーションの提案も、言い訳しながらも取り組むことが表明され、さらに都の“帰宅困難者対策”が、長距離を歩いて帰ることを奨励したものだったのは「むやみに職場からの帰宅は危険」との国の見解と矛盾するとの指摘にも見直しの答弁がありました。

●知事の暴言に相乗りして憂さ晴らしか？

帰りに別の公明党議員と会ったので、「おたくのヤジも最近荒れてるね」と言うと、「昔は悠長に公費も使えたけど今は世間がうるさくて殺伐となるよ」と言いました。議員への目が厳しい腹いせに、石原知事の暴言に便乗してヤジりまくれということでしょうか・・・。

石原知事や大阪の橋下知事の横暴を正すどころか、マスコミがもてはやし、与党がこれに便乗しているうちに、ともに墜落していくのだと痛感しました。

(右の写真は7・2原発ゼロの集会のようす)



(この1週間後に、自民党都議が自宅で自殺と思われる死を遂げ、都議会

は最終日に再び混乱し、日本共産党などが訴えてきた新銀行東京や築地問題を協議する特別委員会の存続が、本会議で逆転可決される場面もありました。まさに都議会や石原都政をめぐる激動の象徴かもしれません)

夏の暑さに負けずボランティアを継続して派遣します



石巻共産党ボランティアセンター外観。ここに全国の支援が集まります。

北区の日本共産党は7月12日(火)から3日間の第2次派遣、7月16日(土)からの第3次派遣に続き、8月の22日ごろから第4次派遣に取り組む計画です。

現地の状況を民報読者の皆さんに報告していきますが、あわせて現地でボランティアとして活動したいという方々を募集しておりますので、お申し込みや、希望者のご紹介をぜひお願いします。

詳しくは、そねはじめ事務所までお問い合わせください。